

高全

【話すこと（発表）】

コミュニケーション英語 I
将来の夢について英語で述べる

1 「札幌 CAN-DO スタンド」の形での学習到達目標との関連

馴染みのある話題や自分の関心のある事柄について、自分の考えを事前に準備して、メモの助けがあれば、語るすることができる。【S⑩・HS I】

2 単元名・単元の目標

単元名：All Aboard! English Communication I 第1学年～第4学年

『Lesson5 Finding My Future』

クラスメートに自分の好きなことや、してみたいことを踏まえ、自分の夢について、メモを基に、英語で語るすることができる。【話すこと [発表]】

3 単元の学習内容（大通高校は1時限45分だが、2時限をつなげて90分で行う。）

校時	学習内容	学習活動・言語活動
1・2	<ul style="list-style-type: none"> ・（帯活動）スモールトーク ・リスニングで本文の内容を推測。 ・単語熟語の確認をしつつ本文の内容の確認。 ・新出文法の紹介と練習問題。 	<ul style="list-style-type: none"> ①本文リスニング ②新出単語 ③内容確認 ④Grammar points
3・4 (評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・（帯活動）スモールトーク ・本文の音読を通じて、内容の復習 ・スピーキングの下地作り ・Q&A や要約文の穴埋めを通じて本文理解の最終チェック ・言語活動 ・スピーキングテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤本文の音読練習 ⑥Q&A ⑦要約文の穴埋め ⑧本文の内容を参考にした言語活動 →スピーキングテスト

4 パフォーマンステスト例

(1) 発表例

好きな物事や、やりたいことについて考え、それを元に将来の夢について話す。

I like ①soccer.
I want to ②teach it to children.
So I'll do my best to be ③a soccer coach in the future.

※教科書に様々な語彙が掲載されており、(例)の①～③を変えれば準備ができるので、英語が苦手な生徒でも取り組みやすい。

(2) パフォーマンステストの実施方法・留意点

- ・パフォーマンステストに向けて自宅での準備は行わず、準備・練習・スピーキングテストの一連の流れをすべて1回の授業で完結させる。
- ・ALT が週1時間担当する授業を実施コマとする。授業の進行上 ALT が実施できない場合はJTEが行う。両方が手分けして行うこともある。

- ・発表方法は、学級全体へのスピーチではなく、生徒が教師に対して発表する形式で行う。教師が教室内で生徒間を巡回して行う方法、生徒が廊下へ移動して個別に行う方法の2通りがある。

(3) 指導のポイント

①事前指導

- ・事前準備のためのハンドアウトを作成するが、教科書データを活用して手軽に作成できる程度のもにとどめる（ハンドアウト作成に時間をかけ過ぎない）。
- ・教科書では、「将来の夢について発表しよう」と簡潔に取り上げられている。授業では、「クラスにいる留学生と将来の夢について話しています」など、さらに具体的な場面を設定することによって、生徒が相手意識をもちながらスピーチに取り組むよう工夫している。

②事後指導

- ・点数も含めて、その場で評価（講評）のフィードバックを与える。
- ・スピーキングテスト終了後も、毎時間の帯活動（スモールトーク）の中で繰り返し話す練習の機会を設けることによって、話すことのできる話題を増やしていく。

5 本單元における「話すこと[発表]」における評価基準表

メモ（事前に準備した原稿）なしで最後まで話せた。	a
メモ（事前に準備した原稿）を見て最後まで話せた。	b
メモ（事前に準備した原稿）を見ても話せなかった。	c

- ・「札幌 CAN-DO スタandard」の学習到達目標で、「メモの助けがあれば」となっている。この目標を達成できた場合は b、メモを見なくても話すことができ「十分満足できる姿」と判断された生徒は a としている。
- ・令和 4 年から実施される次期学習指導要領の解説を参照し、話すこと（発表）については、クラス全体で話をする以外に、ポスターセッションのような個別の発表など、発表には複数の方法がある。テストの評価項目をシンプルにすることにより、本校では生徒が目標に向かって学習しやすくなるよう配慮している。

6 留意点

定期試験にも、形式を少し変化させて、ライティングの形で出題し、繰り返し練習をさせる。

下の質問①～③の答えとなる英文を、空欄 **ア** ～ **ウ** にそれぞれ書きなさい。 [9点]

Introduce Yourself!

自己紹介カード



① あなたが好きなこと・ものは？ (What do you like?)

ア

② あなたがやってみたいことは？ (What do you want to do?)

イ

③ あなたの将来の夢は？ (What is your dream for the future?)

ウ

高1

【話すこと（発表）】

オリジナル教材

宿泊学習に関するテーマ別発表

1 「札幌 CAN-DO スタンド」の形での学習到達目標との関連

馴染みのある話題や自分の関心のある事柄について、自分の考えを事前に準備して、メモの助けがあれば、語るができる。【S⑩・HSI】

2 単元名・パフォーマンス評価の目標

単元名：オリジナル教材・ニセコ宿泊学習に関するテーマ別発表 第1学年

宿泊学習で訪問するニセコについて事前にパンフレットやインターネットで情報収集し、まとめた情報についてプレゼンテーションを通して共有を図ることによって、充実した事前学習を行うとともに、英語による発信能力を高める。【話すこと [発表]】

3 単元の学習内容

校時	学習内容	学習活動・言語活動
指導前	宿泊学習の行程紹介	
1	プレゼンテーションまでの流れ説明	テーマ別にグループを分け情報収集のスタート
2・3	ニセコのテーマ *食べ物 *ウインターイベント *サマーイベント *外国人 *観光地 グループごとに作業をすすめる。	①グループ別に調べ学習 ②テーマに沿ってグループ内での仕事割り振り ②発表原稿作り ③rewrite ③発表資料の準備 ④グループ別発表練習
4 (評価)	発表	①プレゼンに対して教師の評価と相互評価 ②ベストグループを選出

4 パフォーマンステスト例

(1) 内容

テーマ別にグループを構成する。

各グループがテーマについて調査し、調査内容を5分で発表する。

(テーマ例)

- *What to eat in Niseko
- *Winter Activities in Niseko
- *Summer Activities in Niseko
- *Foreigners in Niseko
- *Sightseeing Spots around Niseko

(2) パフォーマンステストの実施方法・留意点

- ・ 4人一組で前に出て、順番に自分の調べたことを発表する。
- ・ 発表者はテレビに写真や動画を映しながら発表する。
- ・ 相互採点ができるように生徒用評価用紙を準備し、発表を見学している生徒達も採点する。
- ・ ALT も評価に加わり、最後に講評を行う。



(3) 指導のポイント

① 事前指導

- ・ ニセコ紹介のパンフレット（英語版）を教材として用いる。
- ・ プレゼンテーションに説得力を持たせるために統計等の具体的な数値を入れるよう指導する。
(例：外国人訪問者数、各観光地の訪問者数の推移など)
- ・ 事前に評価規準について伝える。
- ・ 各グループの調査内容を情報交換することを通して宿泊学習への学習が深まることから、プレゼンテーション場面において、相手に伝わりやすくなるよう工夫することについて指導する。

② 事後指導

- ・ 評価表を返却し、個人とグループへのコメントを伝える。
- ・ 次のプレゼンテーションに向けてのアドバイスをする。
- ・ 学年で最も評価の高かった2グループが学年全員の前で発表し、学年全体のプレゼンテーション力の向上を促す。

STUDENT'S FEEDBACK SHEET				
1st GROUP				
TOPIC: _____				
		ABSOLUTELY!	JUST ALRIGHT	NEEDS IMPROVEMENT
GENERAL				
1.	Was the presentation INTERESTING?	3	2	1
2.	Was the presentation EASY TO UNDERSTAND?	3	2	1
PRESENTERS				
3.	Are their voice LOUD AND CLEAR?	3	2	1
4.	Was their English GOOD?	3	2	1
COMMENTS:				

5 本単元における「話すこと[発表]」における評価基準表

TEACHER'S FEEDBACK SHEET					
Class: _____ Topic: _____ ALT: ____/15 JTE: ____/15				Final Score:	
Student Number: _____ Student Name: _____					
		3	2	1	0
1	CONTENT	- All parts are informative and relevant to the topic - Used transition words	- Most parts are relevant and informative	- Some parts are irrelevant or not essential to the topic	- Content is completely irrelevant to topic
2	GRAMMAR	- Grammar is mostly perfect and understandable - Mistakes are minor, if any	- Some major mistakes in grammar but still understandable	- Mistakes in grammar result to difficulty in understanding parts of the presentation	- Presentation is completely incomprehensible due to grammatical errors
3	PRONUNCIATION & VOICE QUALITY	- Pronunciation is very clear - Voice is loud enough to hear at the back of the room	- Pronunciation is mostly clear despite some mistakes - Voice is well-modulated most of the time	- Pronunciation mistakes change the meaning of the sentences - Difficult to hear some parts	- Poor pronunciations makes the presentation incomprehensible - Speaker is almost whispering
4	USE OF MATERIALS	- Used pictures effectively		- Pictures were not used at all during the presentation	
5	STAGE PRESENCE	- Almost memorized the script - Maintained eye contact - Kept the audience engaged - Good body language & gestures	- Familiar with script content - Made eye contact and asked questions at times - Some gestures are used	- Read script most of the time - Poor body language/ eye contact - No interaction with audience	- Visibly unfamiliar with script content - Did not make eye contact/use gestures at all
COMMENTS:					

高1

【書くこと】

英語会話

構成を意識してエッセイを書こう

1 「札幌 CAN-DO スタandard」の形での学習到達目標

自分の経験や身近な事柄について、論理の構成や展開を工夫して、まとまりのある文章を書くことができる。【W⑦・HW1】

2 単元名・単元の目標

単元名：英語会話 Sailing（啓林館）『Unit 2 Show & Tell』 第1学年

自分の好きなこと（食べ物、人、スポーツ、映画など）について、既習の語彙や言語材料を用いながら、理由を加えて話す発表（Show&Tell）を行い、その発表に基づき、同様の枠組みを用いてまとまりのある自己紹介文を書くことができる。【書くこと】

3 単元の学習内容

校時	学習内容	学習活動・言語活動
1	導入	①パフォーマンステストまでの日程確認 ②段落構成の確認 ③語彙や表現の確認 ④ALTによる発話例の提示 ⑤各自のトピック決め ⑥評価の説明
2	Show & Tell 書く・読む活動	①各自の書く活動 ②教員による添削 ③音読活動
3	Show & Tell 話す活動	①音読活動 ②自己評価、ペアによる相互評価
4	Show & Tell 話す活動	①クラス発表 ②相互評価、教員評価
5 (評価)	パフォーマンステスト	①段落構成、語彙や表現の復習 ②書く活動 ③授業終了時に提出 ④教員評価後、次回の授業で返却

4 パフォーマンステスト例

(1) 内容

自分の好きなこと（食べ物、人、スポーツ、映画など）について英語で述べる。

ただし、以下の条件を含めて作文する。

- ①自分の好きなことについて 60 語以上で書く。
- ②導入・結論となる文を含め、段落をつけて書く。
- ③好きな 3 つの理由とその詳細を述べる。

(2) パフォーマンステストの実施方法・留意点

- ・英語会話の授業時に CALL 教室で 15 分間の記述形式で行う。
- ・採点は授業担当の日本人教員が各項目の評価を行った後、ALT がコメントをつける。

(3) 指導のポイント

①事前指導

- ・事前に説明プリントを用い、評価基準を伝える。
- ・生徒は辞書を持ち込むことができるが、例文の引用は禁止とする。

②事後指導

- ・テスト返却時に、評価結果と ALT からのコメントを添付する。

5 本単元における「書くこと」における評価基準表

		a	b	c
知識・技能	文法	既習の言語材料を駆使し、辞書を効果的に活用して、正確に書いている。	既習の語彙や言語材料を用いて正確に書いている。	既習の語彙や言語材料を用いて伝えることが難しい。
	語数	60 語以上の語数で英文にまとめて書くことができる。	50 語～40 語の語数で英文にまとめて書くことができる。	39 語以下の語数なら、英文にまとめて書くことができる。
思考・判断・表現力	内容・理由の記述	本単元の Show&Tell で発表した事柄を踏まえ、三つの理由を述べて説得力のある内容で伝えている。	本単元の Show&Tell で発表した事柄を踏まえ、三つの理由を述べて、伝えている。	理由が不明瞭で、伝えたい内容を書いて表現することが難しい。
	構成	どのように伝えればよいかを整理し、出会って間もないクラスメートが読んでも、分かりやすくなるよう、全体の構成を考え、工夫している。	どのように伝えればよいかを整理し、学習した構成を踏まえて、全体の構成を考えている。	構成が不十分で分かりにくい。

6 留意点

- ・本活動（英語会話における「書くこと」の活動）は学習指導要領に基づき、話すことの効果を高めるために Show&Tell の形での発表を行った後に、補足的に行われるという点に留意する。

高2

【書くこと】

英語表現Ⅱ

有名人にファンレターを書いて思いを伝えよう

1 「札幌 CAN-DO スタANDARD」の形での学習到達目標との関連

自分の経験や身近な事柄について、論理の構成や展開を工夫して、まとまりのある文章を書くことができる。【W⑦・HWI】

2 単元名・単元の目標

単元名：英語表現Ⅱ「Vision Quest English Expression II Ace」 第2学年

『Appendix 巻末付録“手紙を書く -Writing a letter-”』

有名人や施設等に自分の思いを届けるために、読み手に分かりやすくなるよう、構成や展開を工夫しながら、英語でファンレターを書くことができる。【書くこと】

3 単元の学習内容

校時	学習内容	学習活動・言語活動
1	How to write letters in English	①教科書を用いて英語で手紙を書く際のルールを学ぶ （住所の書き方、封筒の書き方、内容の構成等） ②送り先を決めて、PC等を用いて宛先住所を調べる ③おおまかな内容を決める（6資料を参照）
2 (評価)	Write a fan letter in English	前時の内容に基づいて、封筒と手紙を完成する。

4 パフォーマンステスト例

(1) 内容

- ・ルールに従って封筒、手紙が書かれているか。
- ・自分の伝えたいことが明確に相手にわかる文章になっているか。

(2) パフォーマンステストの実施方法・留意点

- ・誰に宛てて手紙を書くのかを考えるとところから始め、「こんなことを書きたい、伝えたい」という意欲を持って取り組むことができるよう導く。
- ・文法的な正確さだけを求めるのではなく、誤りを恐れずに英語を活用しようとする態度、情報や考えなどを適切に表現するコミュニケーション力を評価する。

(3) 指導のポイント

- ・宛先の検索も英語を使う練習の一部と考えて指導する。
- ・手紙を書くという目的や場面、状況などにおいて必要となる文法事項を生徒に提示し、実際のコミュニケーションにおける文法事項の活用の必然性に生徒自身が気付くよう指導するとともに、本単元では既習の語句や文を活用して自分の力で課題を達成することに重点を置くことを伝える。

5 本単元における「書くこと」における評価基準表

		a	b	c
思考・判断・表現	構成	封筒や手紙の書き方や構成を意識し、相手に分かりやすい形で伝えようと工夫して表現している。	封筒や手紙の書き方や構成を意識して表現している。	封筒や手紙の書き方や構成への配慮が不十分で、分かりにくい。
	内容表現	伝えたいことが明確で、読みやすい内容である。	伝えたいことが不明瞭な部分もあるが、概ね理解できる内容である。	伝えたいことが不明瞭で、内容が理解できない。
取り組む態度	意欲	封筒や手紙の書き方や構成を意識し、相手に分かりやすい形で伝えようとしている。	封筒や手紙の書き方や構成を意識して表現しようとしている。	与えられた課題をこなしているだけである。

■ 「十分満足できる」状況(a)と判断される例

工夫としては、伝えたい内容をできるだけ詳しく述べたり、理由を付け加えたり、具体例を挙げて説明するなど、自分の考えをより分かりやすく相手に伝えようとする状況が考えられる。

6 資料

2- ____ No. ____ NAME _____

Send Letters Abroad!

Your Address

〒001-0925 札幌市北区新川5条14丁目1-1
 → 5-14-1-1, Shinkawa, Kita-ku, Sapporo, Hokkaido, 001-0925, JAPAN

Send To

Hugo Lloris (Tottenham Hotspur FC)
 White Hart Lane, Bill Nicholson Way, 748 High Road, Tottenham, London, N17 0AP, UK

NAME: _____

ADDRESS: _____

Outline

- I'm a big fan.
- I also play goalkeeper. I want to play like you.
- Someday I would like to visit London and see you.

高2

【話すこと(やり取り)】

英語表現Ⅱ

身近な話題について、即興でやり取りしよう

1 「札幌 CAN-DO スタANDARD」の形での学習到達目標との関連

身近な話題や興味関心のある事柄について、情報や考え、気持ちなどを即興で伝えたり、やり取りを継続することができる。【I⑩・HI I】

2 単元名・単元の目標

単元名：英語表現Ⅱ 「即興スピーキング（アルク）」 第2学年

『Unit I Activity 2文以上で答えよう』

身近な話題であれば、2文以上で1分程度、即興で会話を続けることができる。【発表 [やり取り]】

3 単元の学習内容

校時	学習内容	学習活動・言語活動
1	身近な内容についての即興会話の導入	①パフォーマンステストまでの日程確認 ②会話例の確認 ③あいづち表現の確認 ④ALTとJTEによる例の提示 ⑤簡単なテーマで会話練習をする。
2・3	即興やり取りの練習	①言葉だけでなく、目線や表情、ポスターなどの大切さを学ぶ ②あいづち表現の再確認 ③2文以上で答える方法を練習する ④相手の話を聞いて、その話題を続ける方法を学ぶ ⑤数回ペアを変え、即興で話す練習をする
4・5 (評価)	パフォーマンステスト	①ALTの先生と1対1で、3問程度の質疑応答を行う。 ②ALTの先生が評価規準に則り評価。 ③テスト後、生徒は自己評価

4 パフォーマンステスト例

(I) 内容 ※必要に応じて、学習中の内容に関する簡単な質問等を入れても良い。

【項目1：日常会話レベルの質問のやり取り】

Do you like English? / Which club do you belong to? 等

【項目2,3：英検準2級レベルの質問のやり取り】

Yes/No Questions

・ Do you think schools should have more sports events for their students? 等

Open Questions

- ・ Today, many people use the Internet. Do you use the Internet in your daily life?等
- 【項目4：会話に対する態度】

(2) パフォーマンステストの実施方法・留意点

- ・ 事前に、相づち表現、2文以上で応答する練習を行う。
- ・ 生徒にとって話しやすい環境となるよう、教室外などの場所で実施する。

(3) 指導のポイント

①事前指導

- ・ このパフォーマンステストは、文法的な正確さだけを求めるのではなく、コミュニケーションの場面において、誤りを恐れずに活用しようとする態度、情報や考えなどを適切に表現したり、伝え合ったりするコミュニケーション力を評価することを伝える。
- ・ 評価規準をあらかじめ生徒に示した上で、練習を行う。
- ・ JTEとALTが良い例、悪い例のデモンストレーションを生徒に明示する。

②事後指導

- ・ 評価後、必ず振り返りの時間を取る。
- ・ 1年次は英検3級程度、2年次は英検準2級程度、3年次は英検2級程度の質問で、毎年度行う。

5 本單元における「話すこと[やり取り]」における評価基準表

【質問1：日常会話の評価】

a	Student tries to answer
b	Student tries to answer but it is hard to understand
c	No answer / Inappropriate answer

【質問2,3：英検準2級レベルの質問への応答に対する評価】

s	Student answers plus additional information in an appropriate way
a	Student tries to answer even if they make mistakes which cause some misunderstandings (If students answer just a word like “Yes.” or “America.”, please ask “Tell me more.” or “Why?”)
b	Student can't answer / No understandable answer
c	No answer

【会話に対する態度の評価】

a	Student is enjoying the conversation and trying to speak more and more
b	Student is enjoying but trying to finish the conversation / Student is trying to speak a lot but not enjoying
c	Neither enjoying nor trying

高2

【書くこと】

英語表現Ⅱ

構成を意識してエッセイを書こう

1 「札幌 CAN-DO スタandard」の形での学習到達目標との関連

○時事問題や社会問題など多様な話題について、得た情報を活用し具体例を交えながら、自分の意見を書くことができる。【W⑧・HW2】

2 単元名・単元の目標

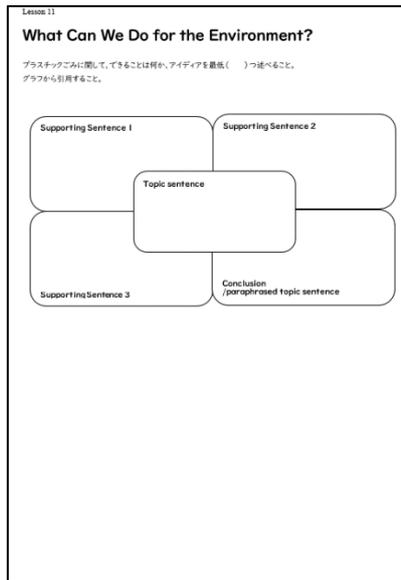
単元名：英語表現Ⅱ「MAINSTREAM English Expression II」（増進堂）第2学年
『Lesson 11 What Can We Do for the Environment』

環境問題に関するパッセージを読んで、「プラスチックごみを減らすためにできることは何か」について、グラフ等のデータを引用しながら、自分の考えを伝える論理的なエッセイを書くことができる。【書くこと】

3 単元の学習内容

校時	学習内容	学習活動・言語活動
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ Key Text 1 (Have you ever imagined garbage you throw away?) ・ Key Text 2 (Reader's Voices) ・ OREO (Persuasive Transition Words) ・ Paragraph structure 	<ol style="list-style-type: none"> ①導入として本課のテーマに関するパッセージ（ゴミ問題について）を読み、語彙を確認する。 ②前年次で学んだ Transition Words を復習し確認する。 ③モデルとなるパラグラフ（フェアトレードについて）を読み、Transition Words に着目してパラグラフの構造を確認する。
2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・ Figure 1 (Plastic waste generated by industry) ・ Figure 2 (How plastic enters the world's oceans) ・ Four Square Writing Method ・ Check List ・ Draft 	<ol style="list-style-type: none"> ①本課のテーマに関するグラフのデータを読み取る（スキーマ） ②作文のための枠を使用し作文のアイデアをまとめる。 ライティング評価のルーブリックを確認。 グラフからの引用を作文の中に含める。 ③チェックリストを使って、個人で英文チェック、相互でピアチェックを行う。（意味がわからないところに「？」を記入、間違っていそうなところに線を引く、OREO の部分を四角で囲む。） ④Draft（下書き）を提出する。
4～5 (評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・ Final Copy 	<ol style="list-style-type: none"> ①教員が Draft にフィードバックを書き込んだものを返却する。 ②Final Copy（清書）を書き、提出する。 ③ルーブリックで評価し、テスト前までに返却。

(資料 1)



(資料 2)

Lesson 11

①“Fair-trade” means the people who make an item are paid fairly. ②I believe Japan should buy more “fair-trade” products. ③First, fair-trade products help developing countries. ④For example, buying fair-trade coffee can help build local businesses in Africa. ⑤Donating money to charities doesn't help the economy of that country. ⑥If we buy fair-trade products, we can help communities in Africa support themselves. ⑦Second, Japan can easily purchase more fair-trade products. ⑧As figure 1 shows, countries with strong economies, like Switzerland and Germany, spend more money than Japan on fair-trade products. ⑨Therefore, buying more fair-trade products won't hurt Japan's economy. ⑩Fair-trade products can support people in developing countries without hurting our economy. ⑪For these reasons, Japan should buy more fair-trade products.

↓

Topic sentence [①] (General information)
[] (Topic sentence)

↓

Supporting ① [] (Supporting sentence)
[] [] (Example/evidence)
[②] (Positive effect)

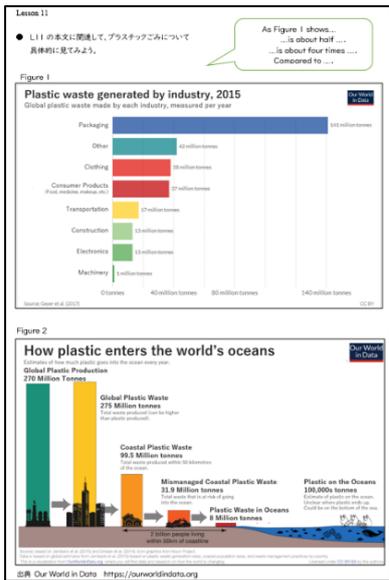
↓

Supporting ② [] (Supporting sentence)
[] (Example/evidence)
[] (Positive effect)

↓

Conclusion [③] (Summary of effects)
[] (Conclusion (paraphrased topic sentence))

(資料 3)



4 パフォーマンステスト例

(1) パフォーマンステストの実施方法・留意点

- ・構成を意識し、論理的なエッセイとする。事前に資料 4 を提示する。
- ・指導の際は ALT との TT、少人数指導（可能であれば 1 クラス 20 名程度）で行う。
- ・フィードバックの際、ネイティブスピーカーから生徒に直接助言できることが望ましい。

(2) 指導のポイント

①事前指導

- ・構成を意識し、論理的なエッセイとする。
- ・英作文の評価規準を提示する。(資料 4)
- ・Transition Words やパラグラフの構成について繰り返し指導する。

②事後指導

- ・ルーブリックに印をつけて評価し、返却する。また、定期テストにおいて、初見のテーマのエッセイライティングを出題し、指導と評価を継続する。

5 本単元における「書くこと」における評価

主に、以下の項目について、評価する。

- ・パラグラフの構成（主張やテーマの明示、論の展開、Transition Words の使用など）。
- ・課題に一貫性を持って答えているか、語彙文法の使用が限定されていないか、適切であるか。
- ・設定された発展的な条件（今回はグラフの引用）が満たされているか。
- ・インデントの使用等の所作。

(資料 4 : パフォーマンステストの評価基準表)

Lesson 11

● Writing rubric

	4	3	2	1	0
O (Opinion, topic sentence)	/	/	立場やテーマが明確に提示されている。	立場やテーマの提示が明確ではない。	無回答。 無関係な記載。
R/E (Reasons/ Examples)	/	理由・例がわかりやすく説明されている。	理由・例が述べられている。	説明不足である。 (ほぼ)同じ言い回しの繰り返しで論が進んでいない。	無回答。 無関係な記載。
O (Opinion, conclusion)	/	/	まとめが書かれている。	あいまいである。 Topic sentence を言い換えていない。	無回答。 無関係な記載。 Topic sentence とずれている。
内容・表現	課題の状況を理解し、十分な内容が書かれている。	課題の状況を理解して、内容が構成されている。	課題に答えようとしているものの、内容が不足している。	課題に対し一貫性に欠け、理解しづらい。	/
語彙・文法	語彙が豊富である。ほぼ適切な語彙・文法を使っている。	語彙・文法が適切でない場合もあるが理解に苦勞しない。	使用できる語彙・文法が限定されているが、適切でない場合があり、理解に苦勞するところがある。	使用できる語彙・文法が限定されており、正確ではない。	/
英語の所作 ①段落・インデント②ワードカウント③接続詞を文中で正しく使用			3つできている。	2つできている。	1つ、またはいずれもできていない。
語数	()語未満、()語以上はマイナス1点				
グラフの引用	/	引用されていて、他の文とつながりがある。	引用されていて、つながりがあるが、軽微なミスがある。	引用されているが、つながりがない。	グラフを引用していない。